植物図説雑纂

一

特 7
758
2.

別 11
33

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号 寄別11-33

ガラス使用

32.4.30

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33

ガラス使用

寄別11-33

梔子譜

百二

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33

ガラス使用

花史雜記

○簷蔔花

簷蔔ハ梔子ノ山中自生多ク人家庭際ニモ移植シ又藩籬ニモナス常緑灌木ナリ自然科茜草科林氏等五綱第一目ニ属ス和名久知奈之和名抄漢名ハ玉鼈白玉花越桃梔子ノ異名多シ曜旬 *Gardenia florida* L. ヲ西洋諸書ニ出ス支那ナリト往ニ載セリ自然ノ物等ニハ多クハ無シト見ヘ枝ヲ分チ繁茂シ葉ノ等ハ此樹高サ六七尺ニ叢生シ枝ヲ分チ繁茂シ葉ノ等ハ異アリ春尾ニ

伊藤圭介稿

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33

ガラス使用

着白花ヲ着ク六瓣厚クシテ蕊平開形稍長キ春時久ク
テ大ク清香人ヲ襲フ名花十友中禪友ニシテ題画
詩歟ニ採ル花開満院秀太平府志ニ芳馥幽靜
可入禪供佛ト(チヲ花着ヲ賞ス)又東皐心越六月暖香霓蔭蔦林軟
(飄)
霜艶態悦人心閑来相玄移時久禪友何須向外尋
咏花暦百詠ニ玉樹臨風秀可餐濃香龍涎體
號林蘭水仙ヒ潔閑芳苑禪友澄心鎖世園六出花飛
當夏雪九秸金煉滿園丹無窮清趣良宵際還照庵
庭浸月寒ト咏ビリ

此實六六七稜ニシテ上端ニ除アリ

和漢共ニ女

百合 実ヲ黄色ノ染料トナス、漢、方ニ用ユ日用ノ品ヨリ 華折枝 袁宏道ノ箱

史ニヨク折枝ノモトヲ搗ニテ砕キ塩ヲ擦シ水ニ入レバソノ花黄色ニ変セズトモ折リ又ハ
ヲ瓶ニ挿ムトキハ端ヲ搗ニテ砕キ白塩ヲ少シ入レ水ヲ加ヘ煮ルベシ水清浦宋
見ヘリ又枝ヲ地ニ挿シテ活シ易シ

ルモノニシテ酢味噌ヲ和シ如ク生ニ亦可ナリ 百歳 花譜ニ梅嶺間

蓬糖 制衣之可作美菜ト謂ヘリ 梔子 飯ニ結ブモノハコノ枝ヲ瓶ニ挿
一種矮小ノ品アリコクチナシ カラクチナシ テウセンクチナシト呼
ブ漢名水梔花一名玉播春ハ閩遠矮樹梔子 秘傳花鏡等其他

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33
ガラス使用

異名少ナカラズ、灌高ハ
樹高サ丈餘ニ尺餘ニ過ズ枝葉繁密ニ叢生
ク実稀ニ結ブノミ蔓下ニ列植シ繁殖愛スベシ

Gardenia Radicans Thu. 十二

かしゐりー氏ゟ
花白色
木すいせんゟ花
花よりハ小さし
長

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33

ガラス使用

梔子

花六出子黄可染色一名鬱薑僧竭伯多禪支

安慶府志　卷五

晩來驟雨山頭過梔子花開滿院香
明日遣坊句、菊類還卷ラナシ出

梔子

二作支子一名鮮支上林賦鮮支黃藥司馬彪注
鮮支支子也佛書稱薝蔔花六出按黃魯直云八
出者勝近有一種花瓣尤多旦大名川梔
赤城志 三十六

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33
ガラス使用

杜甫詩梔子比衆人間誠未多於身色有用與道
元傷和紅取凡霜實青看雨露柯無情移得汝貴在
映江波野人問話云蜀主嘗平東中當理花方有青城
申叟進花子兩顆奏云知理苑圃輒進名花以助佳
趣詔賜之來帛出至帝啟帛與食人遂不知去處已
宣令內園子種之二年枝葉婆娑則梔子樹也其花
爛紅六出香襲人蜀主甚愛之或令圖入團扇或綉
入衣服或以熟帛絹素鵝毛製作首飾謂之紅梔花
又結實則顆大於常梔用以染素則成赭紅色甚好
黒き絹を洗ふニハ濃煎ゝとろくちなしの汁よ
て洗ふへし 一月令廣義

萬寶全書事記 一

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号 寄別11-33
ガラス使用

梔子
有大朶重臺者梅醬密糖製之可作美菜
花史左編 十

山梔
花白而香子葉者雅謔玉搖春見藥部
陸陳縣志 四

蓮池校本古今集 巻七くさふかみてをかくちなしのもとそ」ト
国史学本校 すミレバお説ハ本丹ヲ略きそふる
トアリ
お説ニ

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33
ガラス使用

梔子　　色白而香即佛書曰簷蔔花

梔子

白花有六瓣有重瓣俱有大小二種小者為梔子大者為簷蔔一名林蘭芬馥幽靜可入禪供佛經所謂簷蔔林也

太平府志　卷十三

梔子

即簷蔔也黃似李而尖陵三四月生六出白花甚芬香夏秋結實如詞子狀生青熟黃中仁深紅堪染黃亦可入藥　太平府志　卷十三

梔子

一名鉛桃夏開白花結實房七稜至九稜為佳霜後收之取染物則赭紅色

太平府志　卷十三

蘇州物產志　十二

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33

ガラス使用

同上ノ名ナシ

栀

月令廣義曰十月ニ栀ノ熟子ヲ採ヲ乾シ来春三月ニ至テコレヲ
ヘ灰土ノ地ヲ撰ヒ茄子ヲ植ルコトクスベシ苗長シ次ノ年ウツシ栽シハ
四年ニシテ実ヲ結フ名花譜曰夏月ワカ枝ヲオリ花ヲオビテ細
土ニサセハツキヤスク茂リヤスシ○此花六出アリ他花ハ五出ナリ
五月ニ花ヲヒラク水ニヨロシ葉ニ虫多シ
サルヘシ史記貨殖傳ニ巵子ヲ多クウフレハ甚富千戸侯トヒト
シトイヘリ実ハヨク熟シ霜フリテ後トルヘシ○一種花小ニシテ千
葉ナルアリ実モヒキノ小ナリ水栀トイフヨシニ方図繪ニミヘタリ

栀

月令廣義四十月ニ梔ノ熟子ヲ採ニサラシ乾シ来春三月ニ至テコレヲ
ヘ灰土ヲ以テオホヒ茄子ヲウウルコトクスベシ苗長シ次ノ年ウツシ栽シハ
四年ニシテ実ヲ結フ名花譜曰夏月ワカ枝ヲオリ花ヲオビテ細
土ニサセハツキヤスク成リヤスシ○此花六出アリ他花ハ五出ナリ
五月ニ花ヲヒラク水ニヨロシ葉ニ虫多シ
サルヘシ史記貨殖傳ニ梔子ヲ多クウフレハ其富千戸侯トヒト
シトイヘリ実ハヨク熟シ霜フリテ後トルヘシ○一程花小ニシテ千
葉ナルアリ又モモヒキノ小ナリ水栀トイフヨシ三才図繪ニミヘタリ
五月ニ花サク花ノ香ハナハタカウハシ梅雨ノ中アルニハ正月ニ枝ヲ
サスヘシ園史曰千葉梔子ハサスヘカラス宮枝ノウヘニ土ヲ置キオモ
ニヲカケテトリ永ニスヘシ根生シテキリテウフヘシ凡変此木ハ
コヤス夏ヲコノム養水ヲソソクヘシ枝ヲオリテ瓶ニサスニハッケニテ
一根ヲタタキ塩ヲ入テサセハ花ノ色クハラス又ウフルニハ陰地ヲエラヒ清出好ニテ葉
ヲクラフトキ〳〵サルヘシ実ノハ変ハマレナリ花ヲトリテ生ニテモ乾テモ食
スヘシアルニハホニテ用ユ

花譜ニ

山枝仁 物類発揮

欧邵春 建陽縣志

涙梔子花 群芳譜 一名清波 一名府前

卮子　クチナシ 続日本紀 庭ニ多ク又籬ナドニモスルヘシ木ノ高サ六七尺ニ過キス叢生メ枝モ葉モ對生又葉ハ冬ニモ落ス葉ノ形ハ桃ニ似テ而サキヒロリ厚ク鋸歯アリ黒ミアリ春ノ末夏ノ初葉間ゴトニ花ツク大サ一寸余六弁ニメ弁長リ厚シ香気アリ開キヌ時ハ白色三二日スレハ変メ黄色ニナリ同ナリ落ルヘシ後実結ブ梔ノ形ニメ梔ヨリ長大ニメ竪ニ七ツ九ツヒレ出テアリ緑色ニスサキ実ノ末近ク余リ鬚ノ如クヘアリ実熟メ黄ニナル取リテ染物ニ用コレヲワレハ酸醤ノ子ノ如キ子アリコレヲツマキテコリ生レ早ク長ス惣メ市中庭前ニアル卮子ハ実大ヘ染家ニ用ル斗ヘ葉用ニハナラヌヘコレ集解ニ伏戸卮肥梔本草逢原大卮子本中原始色梔日トニヘ卮子ヘコレハ吉田山ニモアリ木ノ高ニ丈ニ及大木ヘ叢生メ上ヲ枝繁茂ス葉モ花モ小ヘ実ハ至テ小ヘ形ハ同ニコレヲ葉ニ用ニ山卮子ト云ヘ然レ共今葉店ニアルハ多クハ伏戸卮子ノ方ヘコレハ効薄シ山卮子ヲ一名建梔本中逢原黄香影子藝耕永トニヘ一種千葉ノヲ千ニアリコレハ只庭ニウユル斗リヘ葉用ニナラス木ノ高サ二尺ニメ葉モ小ヘ枝横ヘノビルヘ花ハ常ノ卮子ト同シ大サニメ弁三重程重リアリコレヲ千葉ノクチナシト云小クチナシヲ云ヘコレハ漢名水梔花三才図会千葉梔子没南国史王樓春福州府志婆樹梔子花竟微刈梔子野芳譜トニヘ又唐ニハ花赤色ナル梔子アルヨヲ集解ニ云日本ニハ未ナキ名ヘ本条一名白玉花名花譜王蘭舛珠一名令秋名ニ花名著言葛トアリコレハ俗説金色非卮子ヘトニ説是ヘ天

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33
ガラス使用

竺ノ花ニ蔔ト云ハ色黄ニメ香コレハ云ハ公字通ニ委ノ弁
附録木戟　和産知レズ　別録有名未用曰ト云ハ引ト誤レ証実本草ナド
ニテ考多考スルニ蔵器ノ説ヘ別録ヨリハ后ノ説ヘ
二十四

○梔　クチナシヨク籬トナスモノニ葉カナメノキノ如ク
尺ニ過ズメ花実ヲ生ズ
大和本草
○山梔子ノ花梅漬ノ中ニ漬
（中字不ル、梔カ檀カ）

一名久知那志　黒名　木丹　多名　本経　越桃　別録　雑志　一名
月

梔子

一名　肥梔　本経逢原　伏屍子　本草衍義　大屍子　本草拾遺　屍梔　同上　涤梔子花　群芳記
黄梔花　寧波府志　白玉花　名花譜　山屍子　一名建梔　本経逢原　芝止　採取月令　和名　クチナシ
和名鈔　漢土ニテハ山中自生アリコレヲ薬用ニ上品トスルユヘ山梔子ノ名アリ　本邦ニテハ山
生ナキユヘ人家ニ栽ルモノヲ用ユナ灌木ナル八九尺ニ過ス葉ハ茅草ニ似テ硬ク対生ス四
月六瓣ノ白花ヲ開ク形紅蓼馨花ニ似テ大ク香気アリ花ノ下ニ実ヲ結ブ本末尖リテ堅ク
鼈ヲ生ス鼈ニ又鼈アリ六七稜ヲナス熟スレハ黄色中子茄子ノ如ク小ク一品涤家ノ用ユ一
種樹高クナリテ花葉小ニシテ実モ又小ナルモノアリヲ品山野ニ栽テ培養セサルモノハ即
山梔子ニ九州ニハ自生アリ椎山翁云先年信州高井郡灰野山中ニ自生アリ花淡黄寒
地ノ処ニテハ白花ニシテ美シク花開ケス樹ノ形状ハコクチナシノ
如ク葉肥大ニ光滑前条ト同物哉一種コクチナシアリカラクチナシトモ云木甚緻ニシテ丈ケ
枚葉常盤ノ如ク花ヲ葉ニシテ白色多クハ実ヲ結ハズコレハ漢名玉樓春　岡山通志　欲留春　郡武府志
一名水梔花　千葉梔子　広南園史　微州梔子　群芳譜　矮樹梔子花鏡　等ノ名アリ釋名ノ義

菊ハ蘭山ニ出ツ西域ノ名花ナリ此巵子花ノ名トスルハ非ニ正字通ニ
辨スル詳ナリ

山梔子中分實

○山梔 ノチナシ 五月白花ヲ開ク真土 山土ノ湿地高キ處
ニ植テヨシ人薫ハ宜シカラス 花アル 時ニ挿(サシ)テヨシ一種水
梔ト云者アリ 五六月白花ヲ開ク甚 香気アリ 又一種
花ノチナシト云者アリ 主治上焦ノ熱ヲ下シ痰ヲ治ス 慶賀
山梔子(やまくちなし)本草 山ヲの濕地直ヲるもの

菓子の用又菜ニ入多用ラるゝ 三四月枝を挿へし名花備
云夏花ある時挿バ活之

巵子

一名 木丹 越梔 鮮支 花名蘆蔔
郷名クチナシ 和名久知奈之

●別錄曰巵子生南陽川谷九月采實暴乾 ●弘景曰處〻有之亦兩三種 小異以
七稜者為良經霜乃取入染家用於藥甚稀 ●頌曰今南方及西蜀州郡皆有之
木高七八尺葉似李而厚硬又似樗蒲子二三月生白花〻皆六出甚芳香俗說云
即西域薝蔔也夏秋結實如訶子狀生青熟黄中仁深紅南人競種以售利
史記貨殖傳云巵茜千石與千戸侯等言獲利博也入藥用山巵子方書所謂越
梔也皮薄而圓小剋房七稜至九稜者為佳其大而長者雷斆炮炙論謂之伏
尸巵子入藥無力 ●時珍曰巵子葉如冤耳厚而深綠春榮秋瘁入夏開花大如
酒盃白瓣黄蓋隨即結實薄皮細子有鬚霜後收之蜀中有紅巵子花爛紅色
其實深紅物則頽紅色 ▲釋名時珍曰巵酒器也巵子象之故名俗作梔謝靈運謂之
林蘭曾鞏伯呼為禪友

●大和本艸曰梔枝ヲ切テ陰地ニサセハヨク活ス正月及梅雨ノ時ヨシ又實
ノ大ニシテ長キヤウナルヲ撰ベシ此ノ盃木ニウツベシ花早ノサキ實ナル愛スベシ又民用

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号 寄別11-33
ガラス使用

ニ利アリ和名多クチナシト名ツケシハ他果ハカラアレ共口ナシ故ニ名ツク家園及里巷ニ植ルモノハ藥ニ用ユルモノ可ラス藥故ニ山梔子ト云黒炒シテ酒ニテ服熱心痛及鼻血ヲ止又千葉ノ小梔アリ水梔子ト云圃史ニ載ス梅雨ノ中花多ク開ク生熟共ニ食ス此樹高二三尺ニスギズ枝シゲク花多シ六出ナリ三重ナリ梔子ノ生スルコトくし也花小シテ香ヨシ

●用藥類知日　山梔子和名クチナシノミ野生シテ形小ナルモノ佳也家園ニ生シテ形大ナルモノハ染色ノ用ニ供ベシ此外四季ノ梔子アリ及蘖山梔アリ藥用ニイラズ

●一本堂藥選曰凡撰梔子取入藥家用者為佳俗名狐窒捺去勿用未熟者又不可拘房七稜或九路用時切去鬚水洗浸外連皮子剉細以其草水浸焙乾或炒黒等制並不用入梔子樹今人家多種採花為蔬清香可口其實皆可用不限山生又有蘖梔子樹不甚高花重瓣可愛子至少有亦不可用

梔子　花者集

梔子　厄梔子

涪梔子花　群芳譜
肥梔　本経逢原
白玉梔　名花譜

厄子

色梔　同上
玉巵　事物併珠

山梔子　一名　黄香影子　類聚録

梔桃　品字箋　芝止　採取月令
山枝仁　幼科発揮

大梔子　本草綱目

黄梔花　寧波府志

伏梔子　本草彙言

枝子　保赤金書

建梔　本経逢原

鮮支　網目

釋名　木丹　本經　越桃　別録

花名警蕾
時珍曰梔酒器也梔子象之故名俗作梔司馬相如賦云鮮支黄爍註云鮮支即支子也佛書称其花為薝蔔又謝靈運詔之林蘭曹端伯呼為禅友又或曰薝蔔金色梔子似也

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33
ガラス使用

【補仁】慈母 神仙服餌方

人家ニ多ク栽テ花ヲ賞ニ又藩ニ作ル高サ丈許リ葉形長メ末圓ク厚ク硬渋緑色枝葉對生ス夏至前後花ヲ開ク白色芳馨ニメ香気アリ内ニ黄蕊アリ後実ヲ結フ形梹ノ如ニシテ長大ナリ堅ニ稜アリテ高ク出ル七稜ヨリ九稜ニ至ルヲ上トスト云六稜ノ者多ニ生ハ緑色熟スレバ黄ナリ外皮薄ク内ニ紅肉ヲ包アリ採テ陰家ノ用トス黄色ヲ染ム薬用ニ入ル者ハ山梔子ナリ山中ノ自生ニメ葉実共ニ小ク木ハ大ニメ丈余ニ至ル

尾州熱田ノ地村産年ニ五斤ヲ義ヘ献上アリ

【圖芳須知】主治心下癖ヲ癒ス除煩ノ爵トノ鼡血吐血淋疾微毒等ニ用ユ

疏ニ山梔子五ヲ雲南下

【釋名】藍蔔 梵名維摩経ニ出ル西域ノ名花ナリ此ノ卮子ノ花ノ名トスルハ非ナリ 正字通ニ幷ニ引テ詳ナリ

卮子 一名 染梔子 花譜 花曆考

色梔 同上

玉酥 事物紺珠

山卮子 一名 黄香影子 輟耕録

梔桃 品字箋

山枝仁 幼科発揮

大卮子 本草原始

黄梔花 寧波府志

伏梔花 本草彙言

建梔 本経逢原

枝子 啓蒙全書

○鼻内痛ニ山卮子末白膏ニ合テ塗ル ○鼻中瘡 山卮子花(実ノ方可ナリ)菊花等分 ○陰蝕鼻 山卮子仁梔葉等多キ末ニ猪油ヲ入レ日ニ三

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33

ガラス使用

○鼠血疱子ライリ出タ血カケル
スニ用ユ加テ腫タル所ニ付ル
○歩撲指ナドカナヅチニテ打タルニ疱子花落ケル ○癍風山疱焙ル灰
故爺雷ニ灸硫黄ニカ先以熱湯浸我手揉ム ○手撲山栀子
生姜少麦粉 ○咽喉腫痛 ○湯火傷山
疱子煮水ニテヌル ○口中腫痛 ○瞎暈 ○子煎用
煎用 ○鼻中瘡 ○花 衆又煮汲
○木舌 ○歯痛 ○疣 ○雷丸煎汲

三四月・枝ヲ挿ベシ

栀 子 菓 實 多 小 栀 子 花 白 ふ 子 俗 ヘ 回 疱 瘡 の 薬 に 用 ふ

栀（くちなし）　月令　廣義曰十月小栀の熟るを採りさらし乾す　本春
三月ふやしてうへ　灰土をいれておひ苗をうゆること
くすべし　苗長一次の年うゑ　梅まてに手入して実を
結ぶ名花譜曰復月ゆき枝をおりて花をおびて細さ
させてつきやすく莢やすしの比花六出あり他花に五
出多し　三月よ花とひらく多ふるゆゑ莢あふ山ふあらと
用ゆへし　本邦史記貨殖傳ニ疱子を多く
うゑて千戸侯と云ふ実ハよく熟す
みてなるへし　一種花小ふ子葉ありて
小ふり水栀と号よし　三才図絵ふみえたり　三月ふ枝をさすべし
もの香ありて

園史曰干葉梔子さすへかゝるを皮枝のうへふ玄を重ねうけてそうまふすへし根もしてきてうゑへしもけ本いとや。
するとこのむ葉ありをそくつちふて根をとるき地と入てさせてなの名のうす枝ふ赤陰地をこのむ害虫好んて葉をふらふときゝさゝへし実のるふまれあり花をとりてもあても旁ても食すへしある
ひろほしてゆ申　花譜

○山梔子ノ花ハ梅漬ノ中ニ漬テ甚見事ナリ

梔子

○大葉ノ千ナシ
葉甚タ大シビロシノ葉ニ似タリ

○常ノ千ナシ
ヤヽ大ナリ千ナシヨリ小シ

○中ノ千ナシ
実ニ円葉アリ千ナシヨリ小シ

○小葉ノ千ナシ
葉甚タ小シ

越桃

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33
ガラス使用

卮子　クチナシ　葉ハ両タイ
ノ白花ヲヒラク花ヒラハアツシウツ
ラウトキイロニナル
リ又千葉ノモノアリ葉ハ小ナリ花ワタイ
テイ同シ小ナリ實ハ
漢名水梔子花ト云ハ閩通志玉樓春　同上
薬用ニスルノハ山中ノジョンセイガヨロ
シイナリヨレ山梔子ナリ又園ニウエル
ハ實大ナリ肥梔ト云　本経逢原大卮子
本草原始　卮梔　同上　白玉花　名花譜山梔子
一名黄香影子　輟耕錄　健卮　本経逢原芝
止　茶取月令　枝子　千金外科　保赤全書　薝蔔
山梔子ニアラズ天竺ノ名花　ナリ或
人ノ説ナリ此ガヨロシ
附錄　木戟未詳

卮子　ちちあー　和名鈔　肥梔　本経逢原
大卮子　本草原如　卮梔　同上
黄梔花　寧波府志　白玉花　名花譜
伏卮子　本草彙言
染梔子花　群芳譜

人家ニ庭際ニ多ク栽ヲ樹高サ八九尺ニ過ル葉對生ー形茅草ニ似
テ硬ク深緑色ニシテ皺紋アリ初夏六辨ノ白花ヲ開クカラク
サラニ似テ大ニ香気アリ實ハ花ノ下ヨリ生ル頭尾尖リテ竪ニ稜ア
テ稜ニ鬱ヲ生ル熟スレハ黄色トナル集解ニ此實染家ノ用トアリ又
薬用ヨ上品ナリ樹ハ人家ニ栽ル品ヨリハ高キニ至リ花葉モ
小ナリ

一種　けんもぎ

樹高サ三尺許リ葉ノ形枸杞ニ似テ先尖リテ厚ク花ハ卮子ニ似テ
小ク實モ又小サシ

一種 おもあし かもあし

水梔花 上田 千葉梔子 汝南圃史

矮樹梔子 鏡花

樹甚た矮く生して高サ二尺許り枝葉繁密ふるる葉の形前条のさきふ似て花白色みて千葉也るに実ハ結ぶこと甚少し

玉樓春 八閩通志 欽留春 郡武有志

徽列梔子 群芳譜

16

梅園草本 實譜

越桃

撰品 梔子有二三種其形圓而小皮薄赤黄色者為上品薬舗此呼来留様 圖經所謂越桃是也又形長大黄色者可染物 薬性大全所謂黄梔子是也又有二水梔花其葉及花都似常梔而高尺許

本方ニ無考

Gardenia florida 梔子

Gardenia Radicans 常緑ニシテ匍匐スルモノ

Gardenia Thunbergia

山梔子

紅梔子

黄梔子 木丹

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33

ガラス使用

梔子花將折枝根搥碎攪鹽入水則花不黃其結成梔子初冬折枝插瓶其子赤色若花並些可觀

水梔ミカ圀會

古文知奈志

處々種之園中木高二三尺此木横生枝幹甚茂葉長二寸許色緑澤而厚無鋸歯

秋冬不凋春夏開千葉白花

常陸物産志十三

譬喩

一名梔子檀心玉先昔人咏為白玉花子可深色花香清遠曽端伯以為禅友

種法云々署之

名花譜全

梔子花

有花小而重臺者園圃中之品奇又十種薇州梔子小花小枝小花高不過尺許可作盆景

梔　山中實ハ小也　紅南六美ニ木

梔子花史左編　二

梔子有二種其一種花六瓣又白花千瓣者梔子花大葉重臺者海當香雪鈔之所謂薇州梔子小花小枝小花高不過尺許可作盆景者是也其一種花六瓣者梔子花史左編之所謂山中實小也者是也

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33

ガラス使用

梔子花

將折枝搥碎擦鹽入水挿之則花不黃其結成梔子赤色儼若花藍可觀

遵生八牋 十六

梔子花三種

有三種。有大花者。結山梔莖賤。有千葉者。有福建矮樹。梔子可愛。高不盈尺。梅雨時。隨手剪扡肥土

遵生八牋 十六

山梔子

花六出實七菱釋氏譜之謂栀蔡瑶山卮歌云鬱蔔林開花如玉子加金言其花白子黃也

漳浦縣志 卷四

○曾端伯友鬱蔔

○梔子即詹匐也葉似李而厚硬三面生六出白花甚芳香夏秋結實如訶子狀生青熟黃中仁深紅堪染黃亦可入藥

名本草衍義

舊謂有香即梔子九稜七稜入藥絶勝諸花皆五出惟此花六出曾端伯目為禪友

玉樹臨風秀可餐濃香馥體號林蘭水仙比潔開芳苑禪友澄心鎖曲闌六出花飛當夏雪九稜金煉滿園丹無窮清趣良宵際焉照盧庭浸月寒

花曆百詠

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33

ガラス使用

○画梔子 明 呉寛 此種為簷蔔、谷雪、載佛書、
瓣香九六出、卻与雪花如
梔子花題画 明 豊坊 金鴨香消夏日長、抛書
高卧北窗涼、晩来驟雨山頭過、梔子花開滿院香
題画詩類

○梔子白花有六瓣有重瓣、倶有大小二種、小者為海梔子、大者
為簷蔔、名林蘭、芳馥幽靜可入禪供佛所謂簷蔔林也
大平府志

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33

ガラス使用

欲留春

即白花菓梔子花也一名水梔花一名玉樓春漏志云以其花盂夏始開故又名欲留春予竊以為欲留春即玉樓春以聲相近而誤邵武府志九

梔子花

林蘭將擢帶一一載芳馨映竹花逾白鄰樓葉更青風亂仙佩動露拂蝶衣擎不用成攀折相看討小度

隨筆

梔子

有大朶重臺者梅醬密糖製之可作美菜　花史左編　十

梔子

掌瓣者結實可染黃實珠者不結實名薝蔔

陽春縣志　西

クチナシ

くちなし

本和上ニ七 枝子 久知奈之 和 梔子 久知奈之 和名抄巻ノ九ノ 実 枳又 梔又 樝又

支子 林節 梔 クチナシ 和玉 藻九十五

くたに

古今物名 ちりぬれば後はあふ名の花を思ひ知らずもまどふてふ哉

六帖物名 水上を山ゐておつる滝つせのそこく谷うけ

源氏物語 北東は涼しげなる泉ありてくさ〳〵うゑて春秋の木草其中ふうちませたり

くさ〳〵うゑて春秋の木草其中ふうちませたり

餘材抄 あふ苦丹と書きて牡丹うと云り真淵いふちるー

の花の異名之と云りとものふ如何あらん

和漢年代記

梔子

方書謂之越桃小而多稜者用之清火火而長者只作涂色

高要縣志 巻十

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33

ガラス使用

ク千七 和名柳

熟メモロ開カズ故ニ口ナシ

ト云説アリ

梔子 和名久知奈志

梔子ハ衆木ノ人間誠ノ赤ノ多クテ」身ニ色ノ有リ用ノ要道気相知ス
紅ノ取リ風霜ノ實ノ青ノ着ル雨露柯リ無情移ニ得テ汝リ貴在リ映スニ江河ニ

唐杜甫

咏物詩選 四

梔子

三四月ニ枝ノ梢ゞニ

花白六出名鬱薑亦名鮮枝可染黄百千葉者実子有詩 王梔

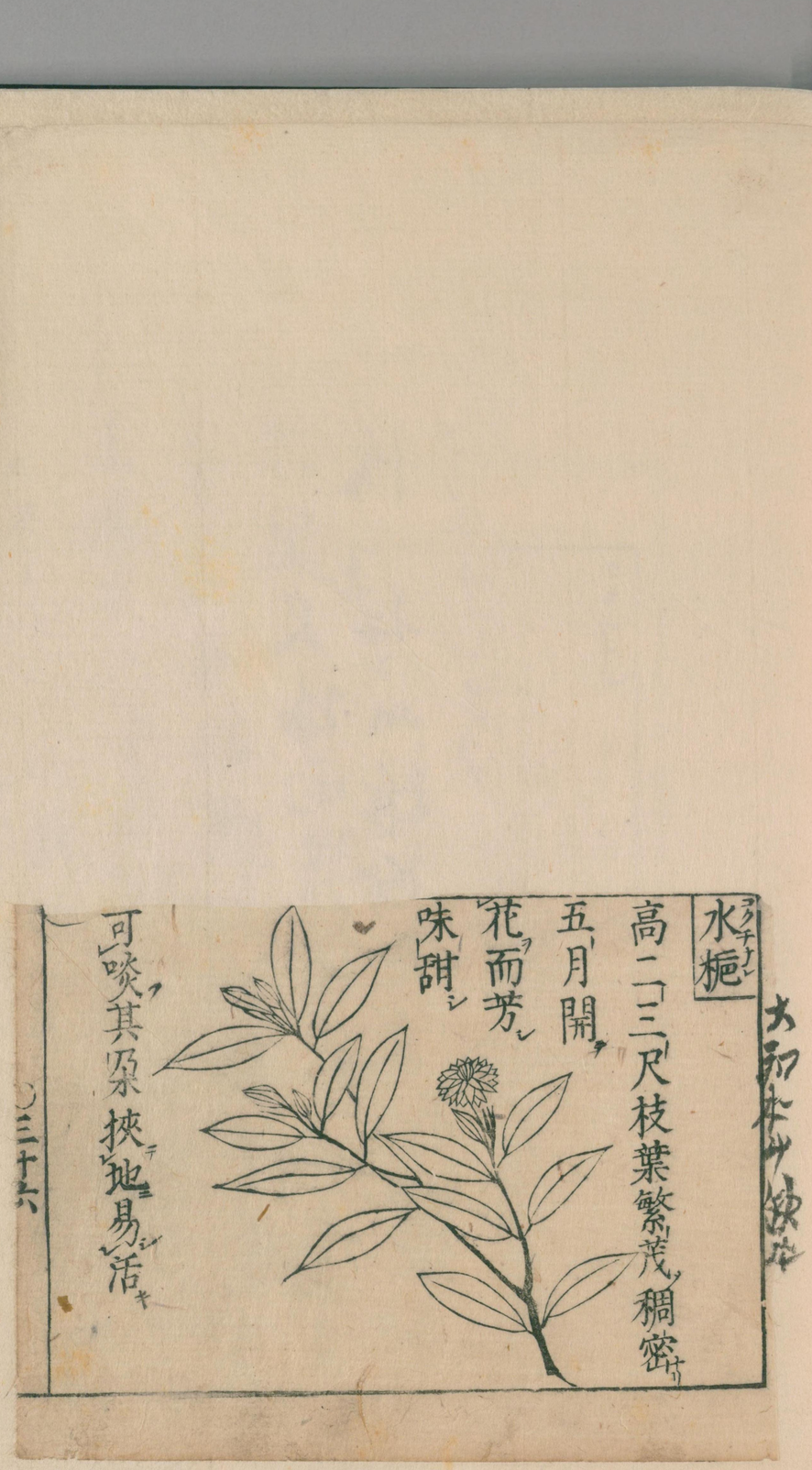
又寸徑梔

義烏縣志 八

附象木戟 詳十ノゞ

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号 寄別11-33

ガラス使用



山梔十
大実梔子。花至秋結子。優状薔薇花。藍経霜由黄而紅。盈種樽瓶。可助十一月中無花之趣
山梔子
梔子花六出子小而多稜者入薬用其大者謂之蓮生八梔(ク)
伏尸梔子但用以染本草謂梔子味苦涩大寒無毒圖経云血痢挟毒熱不者以梔子十四枚去皮擣蜜丸如梧桐子毎服三九四三大效治霍乱轉筋焼梔子三枚為末熱水調服立愈勝金方治婦人臨産痢不限多少焼灰為末熱水調一匙頭甚者不過五服
邵武府志 八

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33
ガラス使用

コクチナシ

一名梔子 梔子花有
三瓣者六瓣者住山梔是賤木千
重者有福建種和
不盈尺梅雨時適手剪枝肥倶
佳 梅に山 種植るに
コクチナシよりも

コクチナシ

カラクチナシ 江戸

水梔花 八閩通志
矮樹梔子花鏡

千葉梔子 泉南園史
徽州梔子 群芳譜

玉櫻春 八閩通志
欲留春 建陽縣志

木ノ高サ一二尺ニ過ギズ葉最小ク花ハ小サクシテ重瓣ナリ多クハ実ヲ結ブ者アリ甚稀ナリ

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33

ガラス使用

コリチナシ

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33

ガラス使用

コクチナシ

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33

ガラス使用

コノチナシ　カラノチ

水梔花 八閩通志
梔樹梔子 広東通志
千葉梔子 群芳譜
徽州梔子 群芳譜

木ノ高サ一二尺ニ過ズ葉最小ク花ハ小ナラズメノ重瓣ナリタクハ実ノ結ブ者アリ甚短小ナリ

玉樓春 八閩通志
紋留春 建陽縣志

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33
ガラス使用

水梔　コクチナシ千葉ノクチナシヨリ大ニシテ
高サ一尺斗葉常ノ梔子（クチナシ）ヨリ小ニメ花ハ常ノクチナシ
ト同ジ三重ニナッテ六弁ニシ香ヨシ露花ノ中ノ間ニ結
子アリ至テ珍シ
水梔　大花

三才圖會云花小而千葉出福建謂之水梔　登桜
比山梔子其花大不合三才圖會説雖然水梔葉厚
而滑澤與山梔子葉迥別此樹水梔而其花極大與
百合訂花者名山丹又有黄花山丹同義　琉球土名

八重梔子
水梔　水梔苍ト出スベシコクチナシ高一二尺過ズ葉
モ小シ高ニ三尺ト云ハ非シ此図花小サシ苍ハ大サ常
ノクチナシノ如シ実ヲ結ブ丁子ノ如シ大

梔子花　梔　コクチナシ

有花小而重葉者園圃中之品弁又一種徽州梔子
小葉小枝小花高不過尺許可作盆景　花更白
玉樓春　　株珍堂日梔中

典籍便覧曰玉樓春梔子小而矮者也

訓　コクチナシ

解　木ノ高サ僅ニ一二尺葉ノチナシ」ニ似テ小サク刻缺アリ至テ細ク又「イワキギョウ」ノ葉ニ似テ厚ク光澤アリ花モ「クチナシ」ニ異ナルコトナク木體ニ比スレバ花大ヒトリ單辨重辨ノ二種アリ然レモ重辨ノ者ハ実ヲ結ハズ

按　此花ヲ採リ陰乾シ胡麻油ニ浸シテ面ニ又ベル人ヲシテ美人ナラシム

白花万重山梔　水梔花万重ト云

九州ト琉球ノ産ト来洋常ノ山梔子ト同シ実結ハズ
ツシテ寒ヲ忍ビ常ノ山梔ニシテ万重ノモノデ

伊藤圖南曰「遺薬説」ト云ヒ海邊藥店又ヲ竜ノヒゲト云ヒ

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33
ガラス使用

白花百重山梔

九州ノ琉球ノ産ナリ尋常ノモノニ異ナラズ唯万重トシ而已ナリ実ヲ結ブコト多カラス

梅圃

千葉庇子（センエフサシ）　イワクチナシ　チャウセンクチナシ

和漢三才図會灌木類

庇子條曰

玉樓花　是福建（ホウケン）ノ矮梔（ワイシ）ノ種

梅圃鉄牛

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33

ガラス使用

同

丸葉疱子

未留波久和奈之（マルハクチナシ）

木類

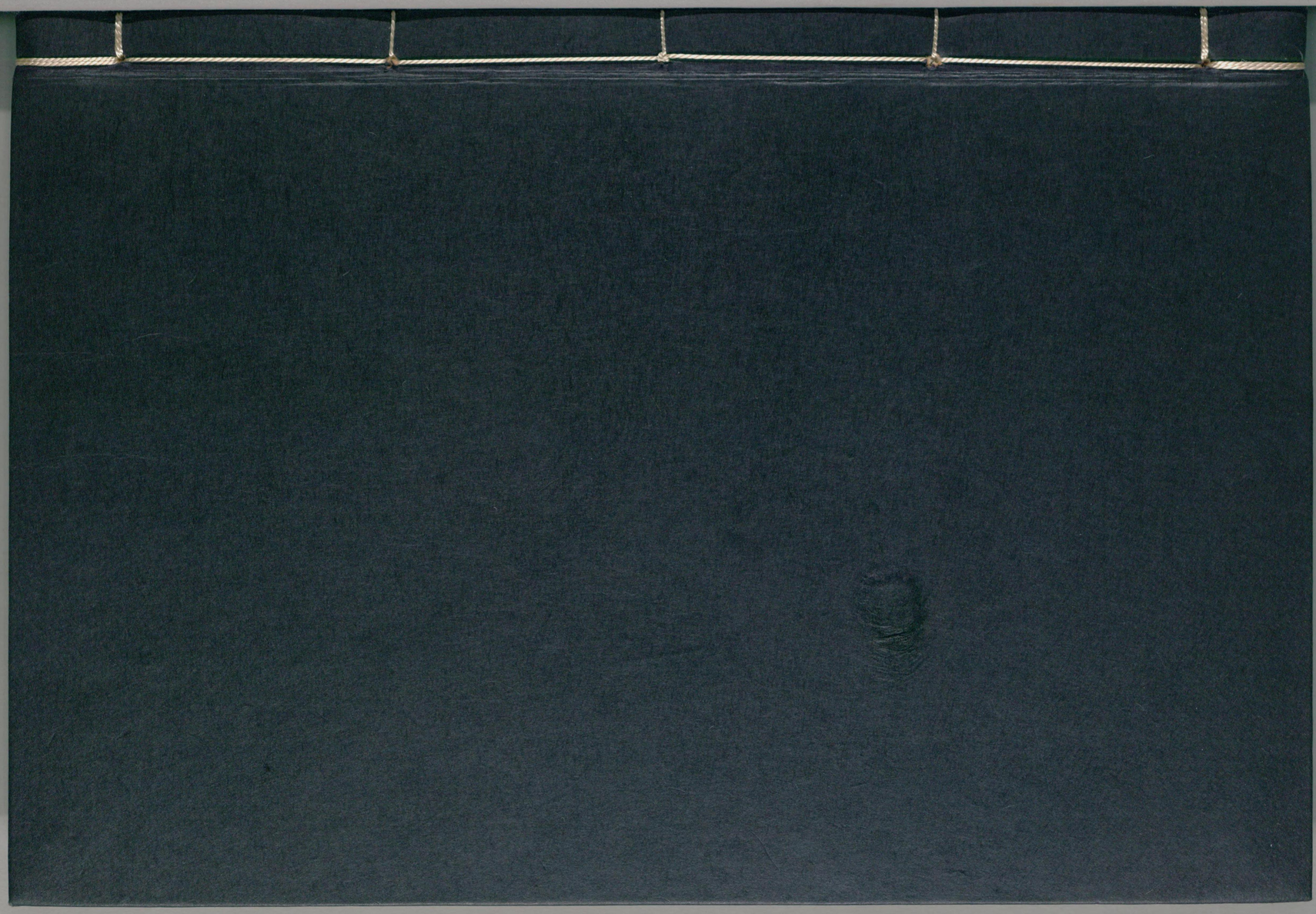
国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33

ガラス使用

別11
33

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』 請求記号 寄別11-33

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[植物図説雑纂]』　請求記号　寄別11-33

ガラス使用